

優秀賞

一般建築物の部

建築主：流山市

設計：株式会社 INA新建築研究所+株式会社 蒼設備設計

施工：株式会社 フジタ

所在地：流山市野々下1-40-1

公園と一体化したスポーツ空間づくり

キッコーマンアリーナ(流山市民総合体育館)



西側エントランスアプローチ 公園の森を抜けてエントランスへアクセス

千葉県流山市に完成した都心からのアクセスも良い運動公園内の総合体育館である。この体育館は、緑を楽しみながら運動ができる公園と一体化したスポーツ空間づくりを目指して計画された。災害時には、市内最大の避難所として活用できるように計画。防災備蓄倉庫、3日間対応の受水槽等を備え災害に対応している。市民が競技能力を発揮する場であり全国に通じる大規模な大会の開催、トップアスリートの試合等の観戦が出来る場の役割、文化行事の開催、災害時の避難場所等の機能を有する体育館である。メインアリーナ・サブアリーナ・武道場を備えた体育館・観覧場であり、地上3階RC造(一部S造)、杭基礎(既成杭)である。

大空間のアリーナには「く」の字型の断面形状を採用することにより、観覧席上部の気積を抑え空調負荷を低減し、4周の高窓から競技に支障がないように柔らかな間接光を採り入れ、照明を必要としない自然光による心地よいス

ポーツ環境を実現した。

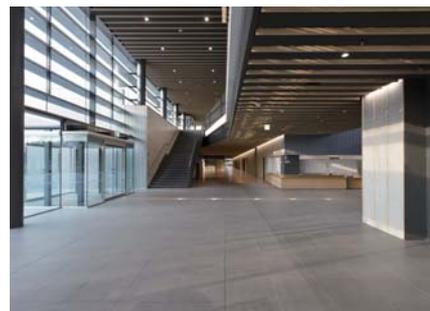
アリーナ空調には、地熱を活用するクールチューブ居住域空調を採用し、快適性を高めている。

アリーナの大空間を構成する大屋根の施工にあたっては、大屋根を2回に分けてスライドさせていく工法を取り入れることにより、鉄骨トラスの積上げを行うクレーン位置を限定することで、景観上重要な既存の樹木や石垣を保全しながら施工を行っている。緑が映えるキャンパスのような外観、アリーナ屋根と内外装の縦のラインは、森のイメージと一体化している。

(圓崎 直之)



西側アリーナ外観
アリーナ内に自然光を採り入れる「く」の字型の外観



エントランスホール
連続するタテのラインが森の木立を連想させる

(撮影/ スタジオパウハウス 吉見 謙次郎)